

カチ **か** **て**
の 声 
第 161 号
2020.8



目次

日本語上達のために(46)

カチニュース(お知らせ)



日本語 **上** **達** のために(46)

日本語上達のために
バラエティ番組 を見よう!

「どうしたら日本語が上達するのか。」皆さんそれぞれ、独自の方法を編み出す努力をなさっているかと思います。どうすればより楽しく、しかも持続的に日本語に触れ、実力をアップさせていくことができるのか、これは誰も抱える共通の悩みですね。

2020年度前期は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインでしか学生さん達に出会えず、これまでの授業とは全く違ったスタイルで授業を進めていかなければならないという、もどかしさを感じながらの1学期間でした。そんな中で少しでも学生さん達とのコミュニケーションを堅持し、成績評価のためとはいえ、発表する

ことで何か得るものがあるテーマが必要だと考えました。そこで「私のおススメの日本語勉強方法」というテーマで期末発表をしてもらいました。今学期、私が担当した「中級日本語1」を受講した学生さん達にとっておきの学習方法の一部を、ここでご紹介したいと思います。講座名は「中級」なのですが、レベルはさまざまで受講した学生さんのうちの8割ほどが中高時代から独学なり

私のオススメの日本語勉強方法は...



学校の授業を通して日本語に触れており、平均すると約5年の学習期間がある学生さん達が試行錯誤して編み出した方法には、私自身もハッとさせられるものがありました。

方法はズバリ!「バラエティ番組を視聴する」です。もちろんドラマや映画を活用して日本人が日常生活で使用する「生の日本語」に触れることも可能です。ですが、映画となると視聴時間が約2時間と長いので、日々の習慣としては簡単ではないでしょう。また、ドラマだとストーリーの方が気になっていっぺんに見てしまい、もう一度ゆっくり見ながら日本語を学習しよう、という気持ちを持つのはなかなか難しいかもしれません。そればかりでなく、ストーリーや人物の関係性を理解した上での表現理解というステップになるので、より多くの時間が費やされることが考えられます(あくまでも個人的な意見です)。また活用方法にもよりますが、字幕付きで視聴するとただ字幕を読んでしまい、リスニングの練習にならないこともあるかもしれません。

もちろんお気に入りのドラマや映画を見つけて、繰り返しわかるまで何度も視聴して、会話のフレーズが自分のものになるまで習得するというやり方もオススメしたい方法です。ですが、そこまで熱中できる映画やドラマにまだ出会っていないなら、バラエティ番組の視聴は効果的な方法の一つだと思います。



そこで、「中級1」の学生さん達が発表した内容を参考に整理した「バラエティ番組のここが日本語学習におススメ!」ポイントをご紹介します。

第一に、楽しみながら日本語に触れられる。内容が面白い!というのは何よりも大きなポイントです。時には理解できないセリフも出てくるかもしれませんが、内容が面白ければ引きつけられて見たいくなるものです。ニュースなどの報道番組を通して学習するのも一つの手ですが、気軽にストレスなく見られるものの方が長続きするのではないのでしょうか。また、バラエティ番組では、飾り気のない庶民感覚の会話が入っていることが多く、日本人との実際の会話を弾ませるきっかけ作りにも役立ちます。また、それを通じ、日本文化のさらなる理解に繋げることもできます。

第二に、よく使うフレーズをより簡単に習得できる。出演者が何度も使うセリフにはパターンがあるものです。もちろん基本的なフレーズも多いですが、映像と一緒に見ることにより定着しやすくなり、実際の会話でも使える表現を素早く身につけることができます。

第三に、テロップの効果で理解度アップ。第二の点とも関連がありますが、バラエティ番組では字幕テロップが使われることが多々あります。発言の内容や声のトーンなどによって字体が変わったり、デザインや色も様々で通常の字幕とは違います。字体の変化、デザイン、色によって表情豊かにその発言のニュアンスや意味を伝達しているのです。たとえ発音が聞き取れなかったとしても、字幕テロップを通して視覚的に意味をキャッチすることができます。また、日本語は同音異義語が多く、音だけでは区別がつかない表現もあるので漢字学習は必須ですが、視覚的に訴えてくれる字幕テロップは漢字学習にも一役買ってくれていると思います。また、わからない言葉や言い回しは字幕テロップを見ながらそのままメモできる、という利点もあります。

第四に、日本人が実際に話すスピードやイントネーション

が聞ける。実際に現地の人が話すスピードやイントネーションに慣れることは、言語習得においてとても大切なことです。私が韓国語を学習した時も、教室内で触れた韓国語と教室の外で話されている韓国語のスピードの違いに驚き、教室内では聞き取れるものも教室の外では聞き取れないということを経験しました。ですから、一般の人が話すスピードやイントネーションに触れる機会を作り、自然な日本語に耳を慣らすためのリソースとしてバラエティ番組は適していると思います。

これまで「バラエティ番組を視聴する!」ことのメリットばかり述べてきましたが、最後に注意点も述べておかなければなりません。

第一に、バラエティ番組では関西弁が使用されることが多々ある。文章も省略されていることもあったり、話すスピードも早い場合もあります。ですが関西弁を知ることには日本文化の理解に繋がる面もあり、マイナス面だけではありません。日本のバラエティやお笑い番組には欠かせないのが関西弁であり、日本の豊かな地方文化に触れるきっかけにもなる、という面もあります。

第二に、知らなくてもいい言葉が出てくることもある。バラエティ番組に出演している芸人は一般の人が使わ

ない表現を使うこともあります。その場を盛り上げるためにわざと大げさな表現を使うこともあるでしょう。それらの表現をそのまま日本人との会話で使用した場合、友人とのたわいのない会話では問題にならないかもしれませんが、むしろそんな表現を知っていてすごい!と思われることもあるかもしれませんが、TPOをわきまえて使用することを肝に銘じておかなければなりません。

文法はある程度理解できるし、決まった表現も知っているけれど、教科書で習ったままの堅い日本語。本のみでの勉強で自然な日本語を身につけるのは難しいです。「自然な日本語が話せるようになりたい。」これは日本語を学習している皆さんの共通の願いだと思います。それを可能にしてくれる一つの方法がバラエティ番組を見る!ことだと思います。どうでしょうか?バラエティ番組、見たくなりましたか?映画やドラマを活用した学習方法でも同じことが言えると思いますが、バラエティ番組を視聴するという方法は、数回見ただけですぐ効果が出るというわけではありません。とは言っても根気強くやり続けていけば、光は見てくるものです。コロナ禍の中、家で過ごす時間が多くなった私たちに少しでも笑いを届けてくれるバラエティ番組を見て、笑顔で日本語力をアップさせていきましょう!

弘益大学教養語学部(世宗キャンパス) 助教授

及川 ひろ絵



故李秀賢(イ・スヒョン)氏墓地参拝



8月4日に当センター職員が釜山の故李秀賢氏のお墓と記念碑を訪問しました。李秀賢氏は2001年にJR新大久保駅で線路に転落した日本人を助けようとして命を落とし、今年が20周年となります。

国際交流基金ソウル日本文化センターと関西国際センターは、「韓国と日本のかけはしになりたい」という彼の遺志を継ぎ、2002年から毎年、将来の日韓交流を担う韓国の高校生を訪日研修を行っています。



<私の日本図書ベストワン>コメントイベント実施

みなさんにとって一番心に残った、他の人にもおすすめしたい日本図書のベストワンを教えてください。
 推薦する図書の「タイトル」と「選定理由」をセンターのFacebook<私の日本図書ベストワン>の投稿
 にコメントしてください。

(*マンガについては別途コメントイベントを実施予定ですので、今回は対象外とします。)
 当選者10名様に図書購入等に使用できるモバイル商品券(30,000ウォン分)
 をお送りします。

- 応募期間** 8月18日(火)~30日(日)
- 当選者発表** 9/1(火)にセンターFacebook上で当選者名と
 商品券受領手順をお知らせします。



【着任の挨拶】

はじめまして、山口上級専門家の後任として参りました信岡麻理と申します。こちらに来る前は国際交流基金の関西国際センター(大阪)に勤務していました。韓国は約20年ぶりで、順天大学で教育実習をして以来になります。韓国と再び縁を持つことができ、大変うれしく思います。(当時、使いきれなかったお金を持って来たのですが、大きさもデザインも全く変わっていました...)

日本での就職や留学を目指して、あるいはアニメ・マンガが好きだから、日本に旅行に行った時のために、など日本語を学ぶ目的はそれぞれです。私もかつて、洋楽にはまったことをきっかけに英語に興味を持ち、大学の第二外国語で中国語を学び、そして今、韓国では韓国語と格闘しています。きっかけは違えど、自信を持って言えることは、新しい言葉、新しい文化を学んだ先に見えてくる景色は、広くて、深くて、素晴らしい、ということです。日本語や日本文化を学ぶ全ての人、特に、子供たちや学生さんに、将来、このごほうびが届くことを願っています。そして、韓国で日本語や日本文化を教えてらっしゃる先生方、韓国に暮らす日本の方、外国の方々と色々な景色を共有できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

国際交流基金ソウル日本文化センター
 日本語教育アドバイザー

信岡 麻理

